

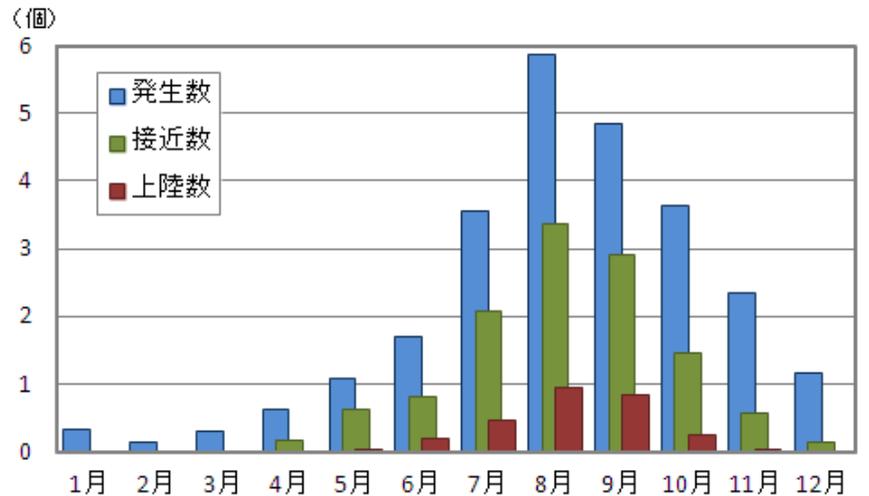
台風に関する参考資料

令和元年9月4日
福島地方気象台

9月4日9時現在、台風第13号が石垣島の南にあって北東へ進んでいます。この台風は7日に黄海へ進む見込みです。

さて、台風の発生、接近及び日本への上陸は下左図のとおり、夏から秋（特に7月から10月）にかけて最も多くなり、東北地方には8月から9月にかけて接近する台風が多くなります。

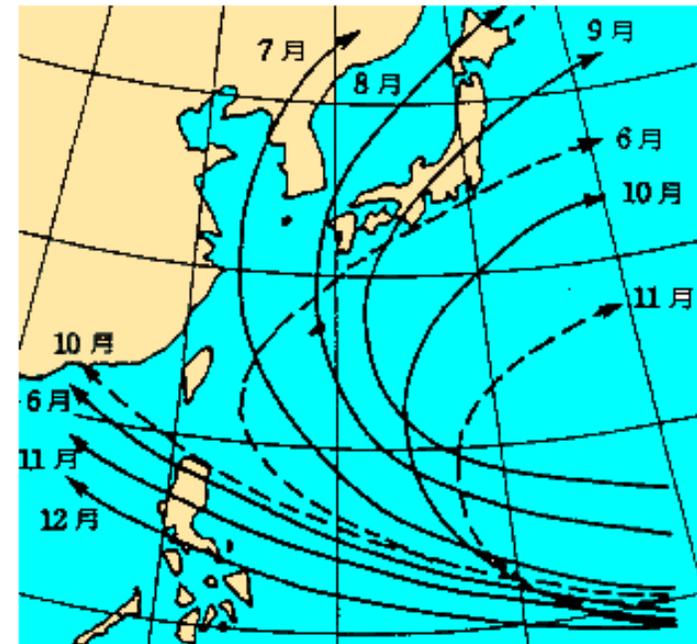
また、台風は、春先は低緯度で発生し、西に進んでフィリピン方面に向かいますが、夏になると発生する緯度が高くなり、下右図のように太平洋高気圧のまわりを回って日本に向かって北上する台風が多くなります。9月以降になると南海上から放物線を描くように日本付近を通るようになります。このとき秋雨前線の活動を活発にして大雨を降らせることがありますので、留意が必要です。



月別の台風発生・接近・上陸数の平年値(1981～2010年の30年平均)

東北地方への台風接近数の平年値(1981～2010年の30年平均)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
				0.0	0.1	0.3	0.8	0.9	0.4			2.6



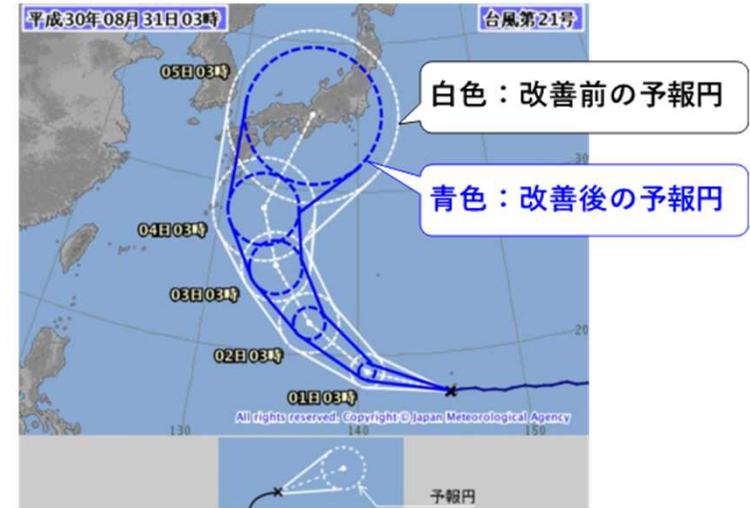
台風の月別の主な経路

(実線は主な経路、破線はそれに準ずる経路)

台風予報の改善（令和元年6月12日から実施）

【改善1】予報円及び暴風警戒域を絞り込んで発表

平成30年に運用を開始した新しいスーパーコンピュータの利用や数値予報モデルの改良等によって、近年、台風進路予報の精度は向上しています。これを踏まえ、精度が向上した最新の台風進路予報を用いて予報円の半径を見直した結果、**これまでよりも平均して約20%小さくすることができました。**これに伴い、**暴風警戒域についてもより絞り込んだ予報が可能となります。**

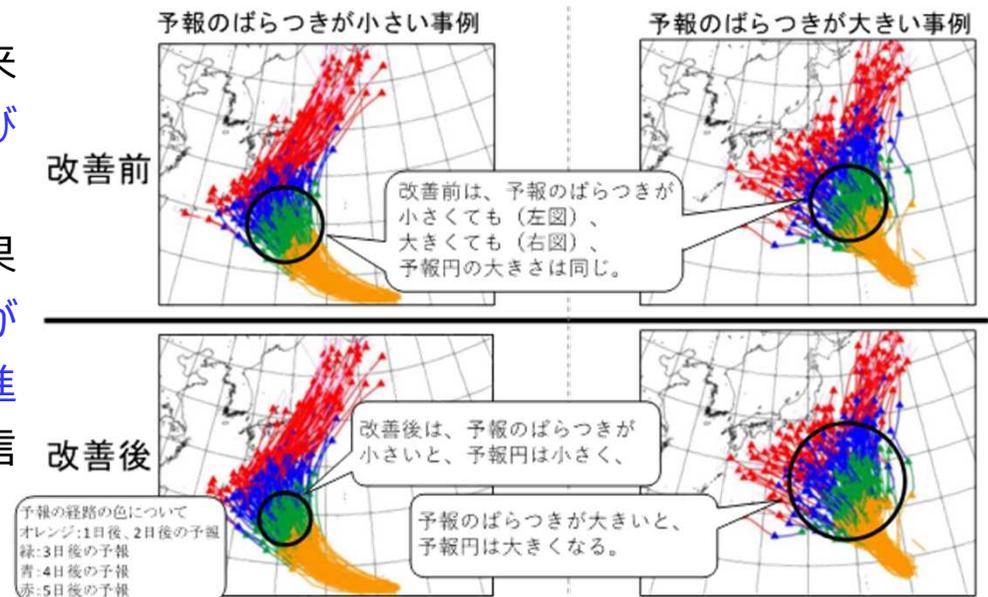


改善前後の予報円の比較(平成30年台風第21号 8月31日03時予報の例)

【改善2】予報の信頼度をよりの確に表現する形で発表

予報円の半径を算出する手法を見直すことで、従来よりも**予報の信頼度をよりの確に表現した予報円及び暴風警戒域**を示します。

数値予報モデルで複数の進路予報を行い、その結果のばらつきを基に信頼度を算出します。**大気の流れが複雑で進路が定まりにくいときは予報円が大きめに、進路が定まりやすいときには小さめに調整され、予報の信頼度を的確に予報円に反映できます。**



数値予報モデルによる複数の進路予報のばらつき具合と改善前後の予報円のイメージ